

聖堂をコンサート会場に使うことについては異論があるようだが、夏休みの終わりに聖堂でコンサートを開いた。友人の紹介で保健所主催のコンサートに、ついでに教会まで足を伸ばしてもらった。土曜日の夜の百分間のコンサート。このコンサートは「地球のステージ」と呼ばれる。主催するのは、緊急援助などの活動をNGO（非政府組織）として行っている精神科医の桑山紀彦さん▼自分で撮ってきた映像をスライドやビデオで編集

し、それを使って世界各地の紛争や貧困について語る。その間にギターやバイオリンで伴奏しながら、歌を歌う。「映像」

地の塩

と「音楽」と「語り」が、まだ見たことのない世界に見る者を引き込む。説教でも説得でもない。たんとんと世界の現状を見させてくれる、まさに

「地球のステージ」である▼一九九六年に始まったこの「ステージ」は今回が百九十五回目。初めての聖堂での「ステージ」であった。山形から桑山さんのメールが届いた。……さて、演奏中のことです。ぼくは後ろから何かを感じて、歌の途中でしたが、振り返りました。すると、そこにはイエス様の像がありました。そして、全然意図的ではないのに突然「私はこの方と呼ばれてここへ来た」という思いがこみ上げてきたのと、「この方が見守ってくださっている」という思いに駆られたのでした。すると、東ティモールで見てきたことなどを思い出し、うっと詰まってしまったのでした。不思議ですね。これを見えない大きな意思と呼ぶのでしょうか……▼よく思うこと……みんな神さまの子どもと言ったら「みんなだれでもそうなんだ」と。聖霊は思いのまま、望み通りに働かれるんだ、と。神は受洗者も非受洗者も差別されない。